

令和7年度コミュニティバス等の利用状況について

バス1

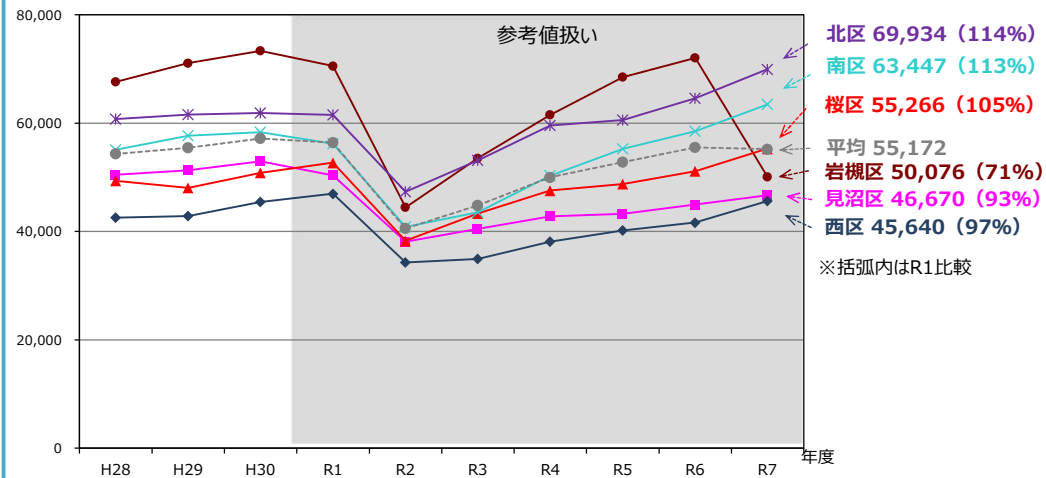
1. 年間利用者数・収支率の推移（H28年度－R7年度）

- ・R3年度からR7年度にかけて利用者は回復傾向にあり、R7年度はコミュニティバスは岩槻区除く全地区で昨年度より増加しており、北区、南区、桜区はR1年度より増加している。乗合タクシーについては、岩槻区並木・加倉地区はコロナ禍前のR1年度よりも増加している。
- ・R7年度の収支率について、コミュニティバスは19.4%～42.7%となっており、R3年度から収支率が概ね回復傾向にあるものの地区による差が大きい。乗合タクシーは6.9%～67.7%となっており、R6年度に路線バスの代替として運行を開始した岩槻区河合地区が最も高くなっている。

コミュニティバス

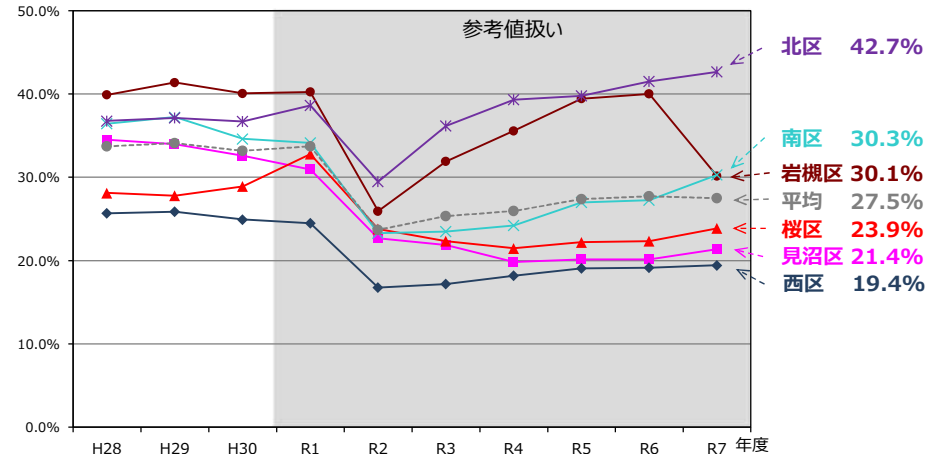
○年間利用者数の推移（H28年度－R7年度）

利用者数(人/年)



○収支率（実績）の推移（H28年度－R7年度）

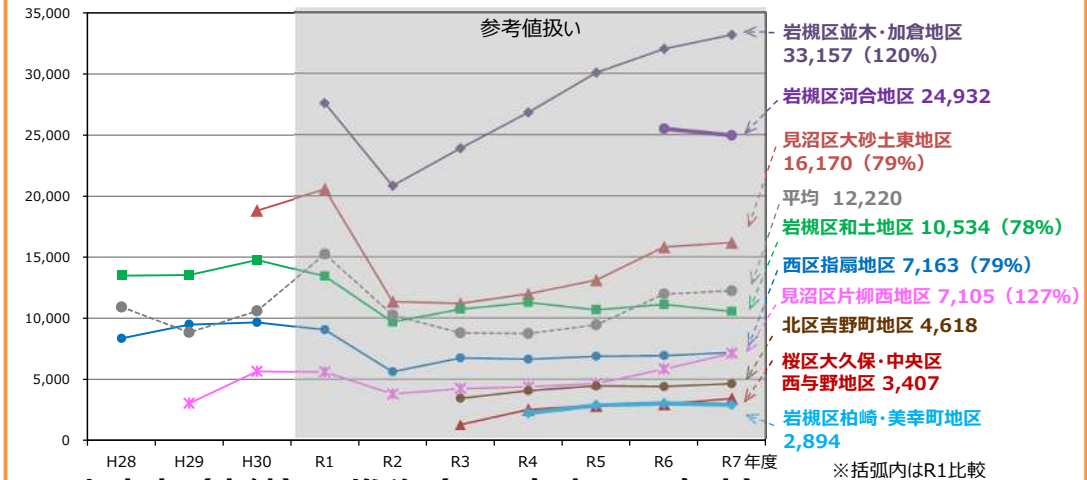
収支率



乗合タクシー

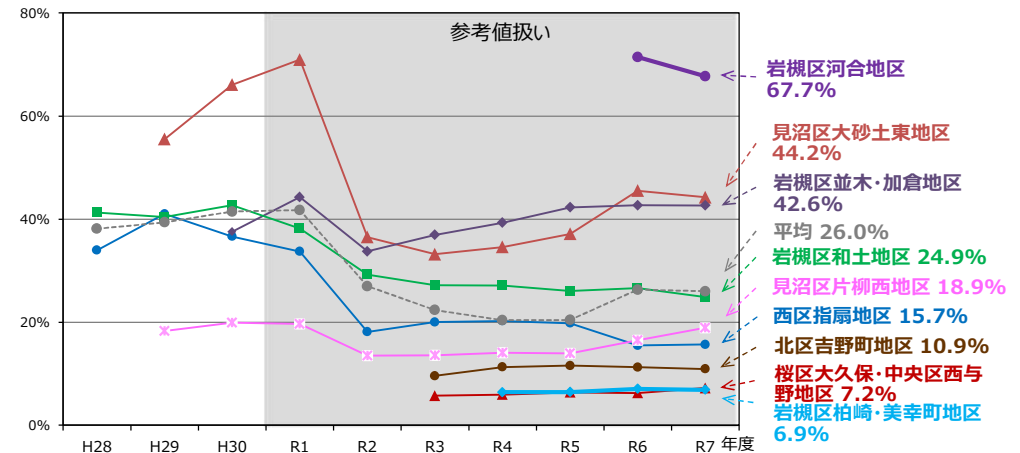
○年間利用者数の推移（H28年度－R7年度）

利用者数(人/年)



○収支率（実績）の推移（H28年度－R7年度）

収支率



※1 休日運行の利用者数は集計に含めていない。（西區・岩槻區：H31年1-3月、岩槻區・見沼區：R3年6月）（コミュニティバス）

※2 収支率＝運賃収入（実績）÷運行経費（運行経費には車両償却費等は含まれない）

令和7年度コミュニティバス等の利用状況について

2-1. 乗合タクシーのキャッシュレス決済導入の経緯

○さいたま市では「さいたまデジタルハ策」を掲げ、市民のサービス向上と業務効率化を目的として、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しており、公共性が高い乗合タクシーの運賃支払いにおけるキャッシュレス決済を令和7年4月1日より導入した。

○なお、約2～3%の決済手数料がかかるが、収支率には不算入とする。

対象路線

- ・岩槻区河合地区乗合タクシー「おりづる号」
- ・岩槻区柏崎・美幸町地区A | デマンド交通「チョイソコさいたまいわつき号」
- ・岩槻区並木・加倉地区乗合タクシー「らくらく号」
- ・岩槻区和土地区乗合タクシー「レインボー号」
- ・見沼区大砂土東地区乗合タクシー「みぬま号」
- ・見沼区片柳西地区乗合タクシー「カワセミ号」
- ・桜区大久保・中央区西与野地区乗合タクシー「むさし号」
- ・西区指扇地区乗合タクシー「あじさい号」
- ・北区吉野町地区乗合タクシー「宮原なかよし号」



対応キャッシュレス決済

- ・デジタル地域通貨「さいたま市みんなのアプリ」
- ・QRコード読み取り（PayPay、d払い、楽天ペイ等）
- ・クレジットカード（JCB、VISA、Mastercard等） ※タッチ決済可
- ・電子マネー（交通系ICカード、WAON、nanaco等）

※現金払いも可

2-2. キャッシュレス決済の利用状況

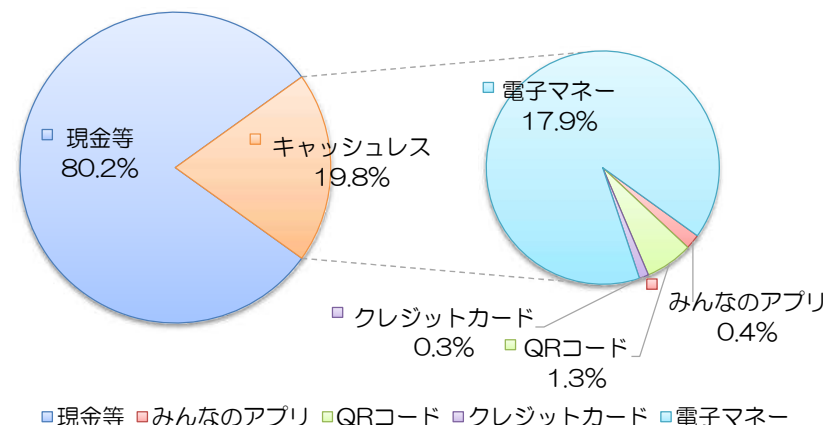
○キャッシュレス決済導入後、4カ月程で利用率が全体の20%に近づいたものの、以降は20%強で横ばいとなっている。

○キャッシュレス決済手段の中では電子マネー（交通系ICカード等）が突出しており、キャッシュレス決済のうち90%前後を占める。

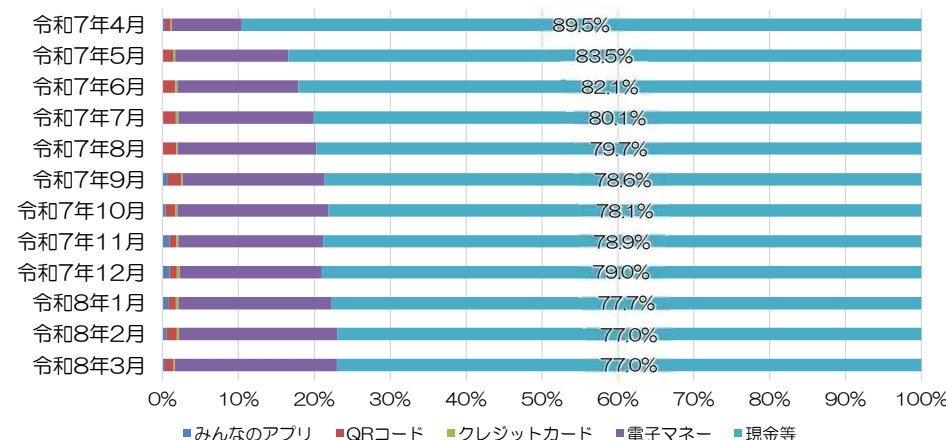
○「みんなのアプリ」は月0～85件で、全体の1%未満で推移している。

○路線別のキャッシュレス利用率について、路線バスの廃止に代わって運行を開始した岩槻区河合地区「おりづる号」が43.5%と最も高く、次いで西区指扇地区「あじさい号」が27.2%と高い。

現金・キャッシュレス決済利用率(令和7年度)



現金・キャッシュレス決済利用状況（月別）



路線別のキャッシュレス利用率(令和7年度)

西区 指扇地区	見沼区 大砂土東 地区	岩槻区 並木・加倉 地区	見沼区 片柳西地区	岩槻区 和土地区	北区 吉野町地区	桜区 大久保・ 中央区 西与野地区	岩槻区 河合地区	岩槻区 柏崎・美幸 町地区 (A オンデ マンド)
あじさい号	みぬま号	らくらく号	カワセミ号	レインボー 号	宮原 なかよし号	むさし号	おりづる号	チョイソコ さいたま いわつき号
27.2%	8.4%	14.0%	21.3%	8.3%	6.3%	4.2%	43.5%	7.3%